

三十回蒼天句会 今月の一句

令和七年四月十日 兼題…辛夷、又は自由

古き靴ふるき私を捨てて春 公子

花の宴場所取りに置く石三つ 婦紗子

花辛夷園児の行進声高し 賢一

雪稜に向かって凜と花辛夷 繁一

たんぽぽや健康遊具のある広場 孝志

清純なうちに早や散れ花辛夷 洋一

退院の日や鳥引くを見送りて 信江

黄金に揺れるミモザや日矢の中 静江

小上がりの框に杖や桜餅 鎮夫

浦安へ辛夷に合いに句帳下げ 国祥

お堀端風に煽られ花筏 隆彦

講堂に並ぶ白襟辛夷咲く 隆男

陽炎や遠い記憶の縄電車 重子

銀輪で下る坂下花こぶし 紹子

春夕焼けもうろう体の東京湾 久恵